

第2章 作業学習の評価と改善

1 作業学習の評価

(1) 評価の基本的な考え方

評価について、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領総則では、次のように規定されています。

○ 個別の指導計画の作成

各教科等の指導に当たっては、個々の児童又は生徒の実態を的確に把握し、個別の指導計画を作成すること。また、個別の指導計画に基づいて行われた学習の状況や結果を適切に評価し、指導の改善に努めること。

○ 指導の評価と改善

児童又は生徒のよい点や可能性、進歩の状況などを積極的に評価するとともに、指導の過程や成果を評価し、指導の改善を行い学習意欲の向上に生かすようにすること。

「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」（平成22年3月中央審議会初等中等教育分科会教育課程部会）（以下、「報告」という。）では、障害のある児童生徒の基本的な考え方が次のように示されています。

- 障害のある児童生徒の評価の考え方については、学習指導要領に定める目標に準拠して評価を行うこと、個人内評価を重視すること、学習指導と学習評価を一体的に進めること、指導目標や指導内容、評価規準の設定においては一定の妥当性が求められることなど、障害のない児童生徒に対する評価の考え方と基本的に変わらない。
- 障害の状態等に即した適切な指導や評価上の工夫は必要であるが、一方で、評価そのものへの信頼性にも引き続き十分配慮することが求められる。
- 学習評価に当たっては、児童生徒の障害の状態等を十分理解しつつ、行動の観察やノート等の提出物の確認など様々な方法を活用して、一人一人の学習状況を一層丁寧に把握する工夫が必要である。

作業学習においては、以上のことを踏まえ、次の2点を柱として評価を考えていくことが大切です。

- 生徒が学習したことを実際の生活のなかでどのように活用しているかを複数の者で評価すること
- 企業等、福祉・医療等の関係者との事例検討会議で評価すること

(2) 評価の工夫

「報告」では、特別支援学校の児童生徒の学習評価の工夫について、次のように示されています。

- 特別支援学校に在籍する児童生徒については学習指導要領において自立活動の指導だけでなく各教科等の指導に当たっても個別の指導計画を作成することが義務づけられたことを踏まえ、それに基づいて行われた学習の状況や結果の評価をする必

要がある。

- 知的障害及び重複障害のある児童生徒に対する指導や自立活動の指導を行う場合には、児童生徒一人一人の実態に即して、個別に指導目標や指導内容を設定し、個別に評価することになるが、設定した目標が高すぎたり、指導内容が具体性を欠いたりすることにより、結果として、効果的な指導につながらないことも考えられる。このため、設定する指導目標や指導内容については、その妥当性の向上に十分配慮する必要がある。

以上のことを踏まえ、次の2点を柱として評価を工夫していくことが大切です。

- 生徒が主体的に活動しているか
- 生徒に働く力が付いているか

自己評価の例

作業学習では、学習活動の開始時に、生徒自らが前時に設定した目標と本時の活動内容を確認し、学習活動の終了時には、振り返りを行い、次の時間の目標を設定することが大切です。そのことによって、生徒が見通しと責任をもって、考えながら活動することが期待できます。また、そのためには、生徒への指示を極力減らした指導も必要です。



作業日誌 10月5日 曜日

しめい氏名 ()

★作業内容

よくできた◎ できた○ むずかしかった△ できなかった×

1 入室・自己紹介	○
2 乾式モップの使い方	△

★作業の振り返り

よくできた◎ できた○ できなかった×

はじめのあいさつができた	○
準備ができた	○
作業をすすんでできた	○
作業を丁寧にできた	○
後片付けができた	○

★今日の反省

乾式モップに力をいれすぎた。せなかがまるまていました。

★次の目標

乾式モップに力をいれすぎないようにしたいです。せなかがまるめなようにしたい。

○ 評価表（チェックリスト）とレーダーチャート

共通の項目で定期的に評価を行い、職業生活に必要な知識や技能及び態度が育っているか、どんな課題があるのかを確認することが効果的です。また、評価を数値化したり、数値化した評価をレーダーチャートなどのグラフにしたりすると確認しやすくなります。

P. 13には、日常生活、対人関係、作業能力及び作業態度の4区分28項目を評価の観点の例として示しています。

P. 14には、4区分28項目を一覧表にし、1～4の数値で評価できるように評価段階を示しています。

P. 15には、1クラス8名として、8名分の年度当初と年度末の評価を一覧で整理する例として、評価記録集約表を示しました。一年間の教育成果を確認する一つの手段として活用することができます。

P. 16には、評価記録集約表に記入された評価が一目で見える工夫として、レーダーチャートを示しています。一人一人に応じた指導及びクラス全体の指導に活用することができます。

評価表(チェックリスト)

区分	項目	評価の観点	ねらい及び内容
I 日常生活	1	生活リズム	食事、睡眠などの生活リズムを規則正しく保つことができる。
	2	健康状態	健康に気をつけ、良好な体調を保つことができる。
	3	身だしなみ	場に応じた服装を考えたり、清潔な服装に気をつけたりするなど身だしなみに気をつけることができる。
	4	金銭管理	小遣い等を計画的に使う、必要なものを買う、保管するなど金銭管理ができる。
	5	交通機関の利用	通学等に交通機関を一人で利用できる。
	6	規則の遵守	規則や決められたことを守ることができる。
	7	危険への対処	危険だと教えられたことをせずに自分や周囲の人の安全を考えて行動することができる。
	8	出席状況	正当な理由(通院、病気、電車の遅れ等)以外の遅刻・早退・欠席はない。
II 対人関係	1	挨拶・返事	相手に応じた挨拶・返事ができる。
	2	会話	会話に参加し、会話を楽しむことができる。
	3	意思表示	自分の意思(参加したい、トイレ休憩をとりたい、助けてほしい等)を相手に伝えることができる。
	4	電話等の利用	電話などを利用して用件を伝えることができる。
	5	情緒の安定	感情のコントロールができる。
	6	協調性	周囲の人と力を合わせたり助け合ったりすることができる。
III 作業能力	1	体力	1日(7~8時間)を通して作業ができる体力がある。
	2	指示内容の遵守	指示通りに作業をする。
	3	機器・道具の使用	作業機器や道具類を教えられた通りに正しく使える。
	4	正確性	ミスなく正確に作業することができる。
	5	器用さ	自分で工夫して作業することができる。
	6	作業速度	必要とされる速度で作業することができる。
	7	作業変化への対応	作業の内容、手順等の変化に対応できる。
IV 作業態度	1	就労意欲	働く意欲がある。
	2	報告・連絡・相談	必要な時に適切な報告(作業の終了、失敗等)・連絡・相談ができる。
	3	時間の遵守	開始時間等を守ることができる。
	4	積極性	作業に自分から積極的に取り組むことができる。
	5	集中力	作業への集中力がある。
	6	責任感	与えられた役割・分担を最後までやることができる。
	7	整理整頓	教室や作業場等の整理整頓をすることができる。

参考: 就労支援のための訓練生用チェックリスト(独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構)

<http://www.nivrjeed.or.jp/research/kyouzai/30.html>

評価表（チャエックリスト）

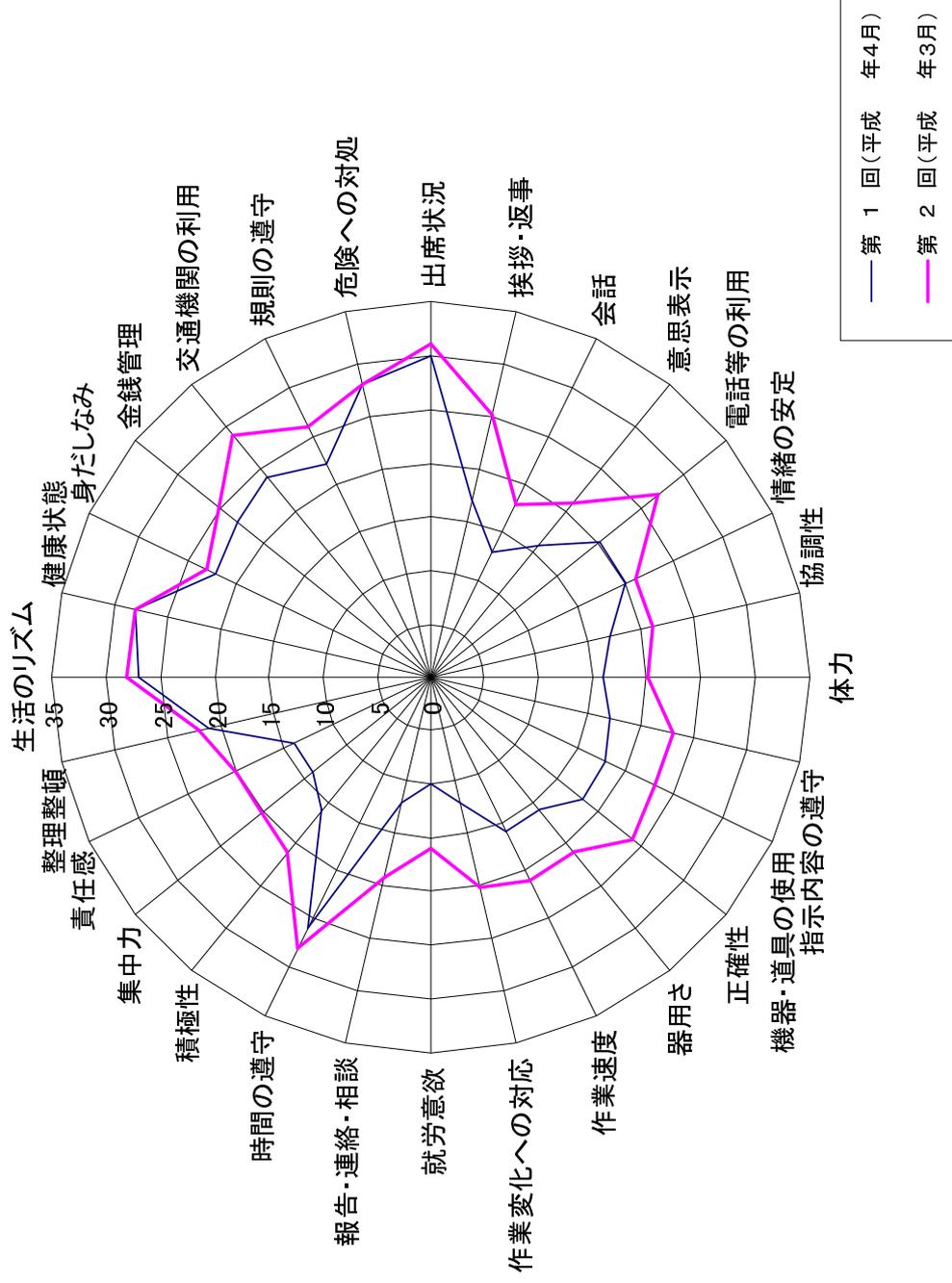
区分	項目	チェック項目	内容	評価段階			項目	区分
				4. (できる、ある)	3. (だいたいできる、だいたいある)	2. (あまりできない、あまりない)		
I 日常生活	1	生活リズム	起床、食事、睡眠などの生活リズムは規則正しい。	生活リズムは規則正しい。	生活リズムはだいたい規則正しい。	生活リズムはあまり規則正しくない。	生活リズムは規則正しくない。	1
	2	健康状態	健康に気をつけ、良好な体調を保っている。	健康状態が良い。	健康状態はだいたい良い。	健康状態はあまり良くない。	健康状態は良くない。	2
	3	身だしなみ	精こにじした服装をし、清潔であるなど身だしなみはきちんとしている。	身だしなみはきちんとしている。	身だしなみはだいたいきちんとしている。	身だしなみはあまりきちんとしていない。	身だしなみはきちんとしていない。	3
	4	金銭管理	小遣い等を計画的に使う、必要なものを買う、保管するなど金銭管理ができる。	小遣い等の金銭管理ができる。	小遣い等の金銭管理はだいたいできる。	小遣い等の金銭管理はあまりできない。	小遣い等の金銭管理はできない。	4
	5	交通機関の利用	通学等に交通機関を一人で利用できる。	交通機関を一人で利用できる。	遅延等の事故がなければ交通機関を一人で利用できる。	迷いやわずらわしい間は付き添いが必要である。	交通機関を一人ででは利用できない。	5
	6	規則の遵守	規則や決められたことを守る。	規則を守れる。	規則をだいたい守れる。	規則をあまり守れない。	規則を守れない。	6
	7	危険への対処	危険だと察えられたことをせず、自分の安全を考慮して行動する。	危険への対処ができる。	危険への対処がだいたいできる。	危険への対処があまりできない。	危険への対処ができない。	7
	8	出席状況	正当な理由（通院、病気、電車の遅れ等）のない遅刻・早退・欠席はない。	遅刻・早退・欠席は月々3回以内である。	遅刻・早退・欠席は月々2～3回ある。	遅刻・早退・欠席は月々6回以上ある。	遅刻・早退・欠席は月々6回以上ある。	8
II 対人関係	1	挨拶・返事	相手に応じた挨拶・返事ができる。	相手に応じた挨拶・返事ができる。	きまづ挨拶・返事はできる。	相手から挨拶されれば返すことばだけできる。	挨拶・返事ができない。	1
	2	会話	会話に参加し、話についていくことができる。	会話ができる。	会話がだいたいできる。	会話がある。	会話ができない。	2
	3	意思表示	自分の意思（参加したい、トイレ休憩をとりたい、助けてほしい等）を相手に伝えることができる。	意思表示ができる。	意思表示がだいたいできる。	意思表示があまりできない。	意思表示ができない。	3
	4	電話等の利用	用件を伝えるのに電話、メール、FAXを利用できる。	電話等を利用できる。	簡単な内容であれば、電話等を利用できる。	電話等をあまり利用できない。	電話等を利用できない。	4
	5	情緒の安定	情緒のコントロールができ、安定している。	情緒は安定している。	情緒はだいたい安定している。	情緒はあまり安定していない。	情緒は安定していない。	5
	6	協調性	他人と力を合わせて助け合うことができる。	協調性はある。	協調性は普通である。	協調性はあまりない。	協調性はない。	6
III 作業能力	1	体力	1日（7～8時間）を通して作業ができる体力がある。	1日（7～8時間）の作業ができる。	6時間程度の作業はできる。	半日（3～4時間）の作業はできない。	半日（3～4時間）の作業もできない。	1
	2	指示内容の遵守	指示通りに作業をする。	指示通りに作業をする。	だいたい指示通りに作業をする。	あまり指示通りに作業をしない。	指示通りに作業をしない。	2
	3	機器・道具の使用	作業機器や道具類を教えられた通りに正しく使える。	機器・道具を正しく使える。	機器・道具をだいたい正しく使える。	機器・道具をあまり正しく使えない。	機器・道具を正しく使えない。	3
	4	正確性	ミスなく正確に作業する。	正確に作業する。	だいたい正確に作業する。	あまり正確に作業しない。	正確に作業しない。	4
	5	器用さ	器用に作業する。	器用である。	器用さは普通である。	あまり器用ではない。	器用でない。	5
	6	作業速度	必要とされる作業速度がこなせる。	必要とされる作業速度の8割以上である。	必要とされる作業速度の6割程度である。	必要とされる作業速度の4割程度である。	必要とされる作業速度の2割程度である。	5
	7	作業変化への対応	作業の内容、手順等の変化に対応できる。	作業の変化に対応できる。	作業変化にだいたい対応できる。	作業変化に対応できない。	作業変化に対応できない。	7
IV 作業への態度	1	就労意欲	会社に出て働く意欲がある。	就労意欲がある。	就労意欲は普通である。	就労意欲はあまりない。	就労意欲はない。	1
	2	報告・連絡・相談	必要な時に適切な報告（作業の終了、失敗等）、連絡・相談ができる。	相談等ができる。	相談等がだいたいできる。	相談等があまりできない。	相談等ができない。	2
	3	時間の遵守	開始時間等を遵守する。	時間を守る。	時間をだいたい守る。	時間をあまり守れない。	時間を守れない。	3
	4	積極性	作業に自分から積極的に取り組む。	作業に積極的に取り組む。	作業にだいたい積極的に取り組む。	作業にあまり積極的に取り組まない。	作業に積極的に取り組まない。	4
	5	集中力	作業への集中力はある。	集中力はある。	集中力は普通にある。	集中力はあまりない。	集中力はない。	5
	6	責任感	与えられた作業や当番などは最後までやる。	作業や当番などは最後までやる。	作業や当番などはだいたい最後までやる。	作業や当番などはあまり最後までやらない。	作業や当番などは最後までやらない。	6
	7	整理整頓	教室や作業場所の整理整頓ができる。	整理整頓ができる。	整理整頓がだいたいできる。	整理整頓があまりできない。	整理整頓ができない。	7

参考：就労支援のための訓練生用子チェックリスト（独立行政法人高詩・障害者雇用支援機構）
http://www.mivr.jeed.or.jp/research/kyouzai/30.html

評価記録集約表

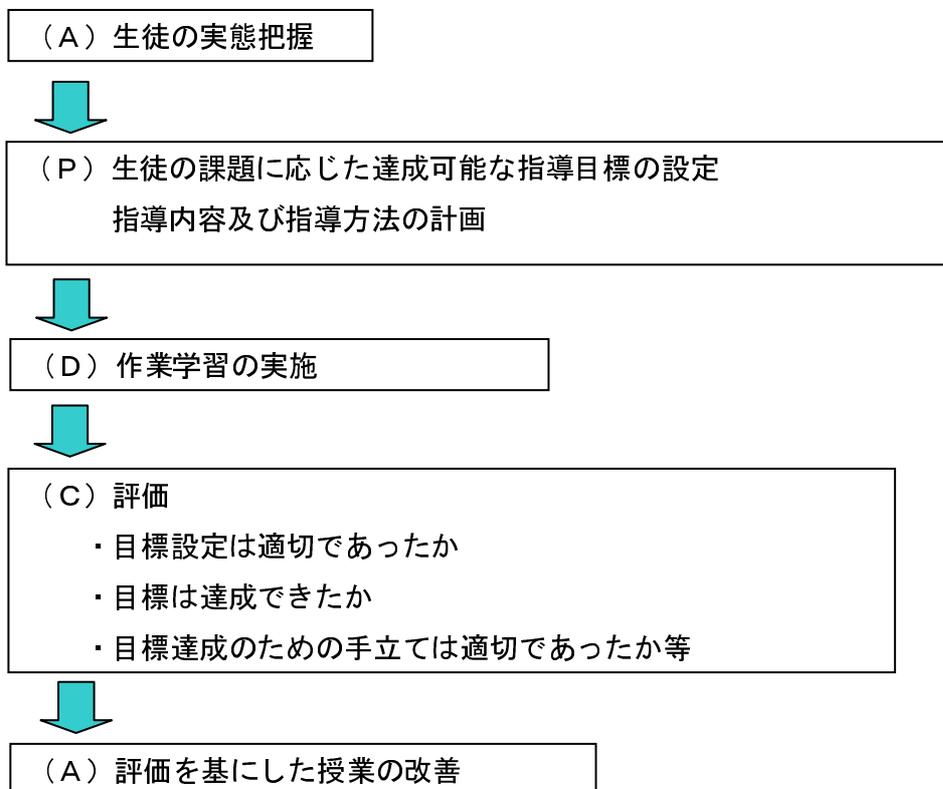
領域	No.	チェック項目	第 1 回(平成 年4月)								第 2 回(平成 年3月)							
			生徒1	生徒2	生徒3	生徒4	生徒5	生徒6	生徒7	生徒8	生徒1	生徒2	生徒3	生徒4	生徒5	生徒6	生徒7	生徒8
I 日常生活	1	生活のリズム																
	2	健康状態																
	3	身だしなみ																
	4	金銭管理																
	5	交通機関の利用																
	6	規則の遵守																
	7	危険への対処																
	8	出席状況																
II 対人関係	1	挨拶・返事																
	2	会話																
	3	意思表示																
	4	電話等の利用																
	5	情緒の安定性																
	6	協調性																
III 作業能力	1	体力																
	2	指示内容の遵守																
	3	機器・道具の使用																
	4	正確性																
	5	器用さ																
	6	作業速度																
	7	作業変化への対応																
IV 作業への態度	1	就労意欲																
	2	質問・報告・連絡																
	3	時間の遵守																
	4	積極性																
	5	集中心力																
	6	責任感																
	7	整理整頓																
評価段階の計																		
自由記述欄																		

評価表のレーダーチャート(例)



2 作業学習の改善

次のようなAPDCAサイクルによって、常に作業学習を改善することが大切です。



作業学習の改善のポイントを生徒、教職員、学校体制の観点からAPDCAサイクルによって整理するとP. 18のような項目と内容が考えられます。

また、一覧にしたものをP. 19に示しています。重点的に取り組む項目を確認するためや、すでに改善できている項目の確認のためのチェックリストとして活用することができます。

○ 作業学習の改善のポイント(案)

	A (実態把握)	P(計画)	D (実施)	C (評価)	A (改善)
生徒	<ul style="list-style-type: none"> ●自己理解 自分の得意なこと・不得意なことを知る 	<ul style="list-style-type: none"> ●目標設定 目標をもつ ●授業準備 作業に適した服装等に替える(気持ちを切り替える) 	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒による主体的な作業 見通しをもって、自ら判断しながら作業する ●基本的態度 授業時間のはじまりを守る けじめのある挨拶・言葉づかいをする ●学習内容の理解 目標・作業内容・注意事項を確認する ●報連相の徹底 分からない時、困った時、できた時、失敗した時の報告・連絡・相談する 	<ul style="list-style-type: none"> ●自己評価 目標を達成できたか、反省点は何かを自ら振り返り、まとめる ●達成感・成就感 任せられた作業をやり遂げる達成感、成就感を味わい、働く意欲をもつ 	<ul style="list-style-type: none"> ●新たな目標設定 自己評価に基づく新たな目標設定をする
教職員	<ul style="list-style-type: none"> ●実態把握 評価表等の活用により生徒の十分な実態把握をする ●就業体験の活用 企業側の評価から生徒の課題を把握する 	<ul style="list-style-type: none"> ●目標設定 職業的自立を促すため個々の適切な目標設定(企業の求める力も考慮)をする ●作業種目・作業内容の厳選 個々の目標に基づく作業種目・作業内容の十分な検討 ●指導計画の充実 教育課程・年間指導計画・単元計画の十分な検討(授業時数) ●教材研究の充実 作業工程の分析に基づく教材研究(作業手順・支援具等の工夫) ●作業環境の整備 安全・衛生・効率等に配慮した作業環境の整備 ●授業者の共通理解 授業前の教員間での十分な打ち合わせ ●授業形態の検討 学習集団の適切な人数及び個々の目標に基づく授業形態の十分な検討(構成、集団の人数、教員数) 	<ul style="list-style-type: none"> ●必要な手立て 目標・作業内容・注意事項・終わりを理解させ、生徒が見通しをもって作業を行うための工夫 ●生徒主体の授業 作業を生徒だけで行えるようにする工夫(教員は直接的な支援・指示はしない) ●十分な作業量の確保 ●生徒同士の協力 分業等により生徒が協力するための工夫(役割分担の理解、責任・参加意識) ●体力・集中力の育成 2時間程度は継続して作業を継続できる工夫(立って作業できる体力の育成) ●精度・効率を求める作業 完成度の高い製品の製作及び作業効率の向上(できる作業から、よりよくできる作業へ) ●基本的技能の習得 基本的技能を身に付け、製品の製作するために、十分な作業学習の授業時数の確保 ●製品の販売による達成感 製品の販売等による生徒の達成感・成就感を育み、働く意欲の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ●授業の振り返り 目標設定等に関する振り返りの実施 ●授業評価 教員による生徒評価、授業評価 	<ul style="list-style-type: none"> ●授業改善 適切な目標設定、支援具・作業工程・指導方法等の工夫 ●横断的連携 他の領域・教科との関連を図る工夫 ●指導計画の再検討 教育課程・年間指導計画・単元計画等の見直し
学校体制	<ul style="list-style-type: none"> ●作業学習の課題分析 授業評価表等を活用した、作業学習の授業観察による課題分析 ●施設・設備等の把握 学校の施設・設備の現状把握 	<ul style="list-style-type: none"> ●研修会の実施 作業学習の授業改善のための研修会の企画・実施 ●生徒に付ける力の整理 作業学習で生徒に付ける力の整理 ●適材適所の人材配置 作業学習の授業改善のための人材育成と人材配置 ●備品等の整備 作業学習の充実のための備品等の整備計画 	<ul style="list-style-type: none"> ●授業観察 管理職による日常的な授業観察 ●外部指導者の導入 企業関係者等の外部指導者による授業観察及び指導の導入 	<ul style="list-style-type: none"> ●授業評価 授業評価表等を活用した授業評価 ●外部評価 企業関係者等による授業評価及び助言 ●施設・設備等の評価 施設・設備等に関する課題の整理 	<ul style="list-style-type: none"> ●指導・助言 授業評価に基づく指導・助言及び改善策の検討 ●施設・設備等の改善 施設・設備等の改善計画の作成

○ 作業学習改善項目一覧

		観点	具体例	①	②	
生徒	A	実態把握	自己理解	自己評価表の活用		
	P	計画	目標設定	自己評価表により次時の目標の確認		
			授業準備	適切な服装, 時間前に集合		
	D	実施	基本的態度	挨拶, 敬語, 接遇の授業		
			学習内容の理解	作業工程表の活用		
			生徒による主体的な作業 報連相の徹底	作業工程表の活用, 指示の少ない授業 分からない時, できた時, 心配がある時の報連相		
	C	評価	自己評価 達成感・成就感 新たな目標設定	自己評価表による振り返り 目標を達成でき, 次時への意欲をもつ 自己評価表の活用		
A	改善	実態把握	実態把握支援表の活用, 進路希望の把握			
教職員	A	実態把握	就業体験・職場実習の活用	企業等からの評価の活用		
			目標設定	達成可能な, 評価のできる目標設定		
	P	計画	作業種目・作業内容の厳選	課題, 興味・関心に沿った種目・内容の設定		
			指導計画の充実	単元計画の活用		
			教材研究の充実	工程分析, 十分な作業量の確保		
			作業環境の整備	安全, 衛生に配慮した服装		
			授業者の共通理解	学習指導略案による打ち合わせ		
			授業形態の検討	個々の目標に基づく適切な集団		
			授業導入の充実	挨拶, 敬語, 接遇の授業		
	D	実施	生徒主体の授業	指示の少ない授業		
			生徒同士の協力	役割分担, 小グループでの活動		
			体力・集中力の育成	授業時間数増, 一日作業学習		
			精度・効率を求める作業	製品づくりを目指す		
			基本的技能の習得	外部専門家による指導		
	製品の販売による達成感	地域等との連携				
	C	評価	授業の振り返り	目標の達成度, 支援の適切さ		
			授業評価	教職員による生徒評価, 授業評価		
A	改善	授業改善	適切な目標設定, 作業工程, 指導方法等			
		横断的連携	他の領域・教科との関連付け			
		指導計画の再検討	教育課程・年間指導計画等の見直し			
学校体制	A	実態把握	作業学習の課題分析	授業評価表等を活用した授業観察による分析		
			施設・設備等の把握	学校の施設・設備の現状把握		
	P	計画	研修会の実施	作業学習授業改善のための研修の企画・実施		
			生徒に付けたい力の整理	付けたい力一覧の作成, 活用		
			適材適所の人材配置	作業学習授業改善のための人材育成・人材配置		
			備品等の整備	備品等の整備計画		
	D	実施	授業観察	管理職による日常的な授業観察		
			外部専門家の導入	外部専門家による授業観察・指導の導入		
	C	評価	授業評価	授業評価表の活用		
			外部評価	企業関係者等による授業評価・助言		
			施設・設備等の評価	施設・設備等に関する課題の整理		
A	改善	指導・助言	授業評価表に基づく指導及び改善策の検討			
		施設・設備等の改善	施設・設備等の改善計画の作成			

※ 例えば, 右の欄を活用して, ①重点的に取り組む項目 ②改善できている項目などのチェックに活用することができます。

